



「社会に開かれた教育」を推進するために

校長 福永一也

児童文学作家、浜田廣介作の「泣いた赤鬼」。この話は、現在3年生が使用している道徳の教科書に載っております。本校では昨年度から道徳の研究を進めており、先日この話(右欄参照)を題材に、今年度最後の授業研究を行いました。

赤鬼が自分のために旅立った青鬼のことを思って涙する場面で話は終わっていますが、担任は子どもたちに尋ねました。「自分が赤鬼だったら、この後どうしますか?」と。

すぐに「青鬼を探しに行く。」とつぶやいた子もいれば、「うん。」と深く考え始めた子もいました。そして子どもたちは、「人間たちに『本当は青鬼は優しい』と話す。」「『青鬼は優しい』と人間に伝えて、一緒に青鬼を探す。」といった意見を発表しました。



実はこの「自分が〇〇(登場人物)だったらどうするか?」といった発問は、以前の道徳授業ではタブー視されていました。「この時の〇〇の気持ちは?」と登場人物の気持ちを問う発問に終始していたのです。それではなぜ、このような自分に置き換えて考えるような発問がされるようになってきたのでしょうか。それは、来年度から小学校で完全実施される新学習指導要領の趣旨と深く関連があるからと、私は捉えております。

学習指導要領とは、全国どの地域で教育を受けても一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省が定めた各学校で教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準を示したものです。約10年ごとに改定をされていますが、今回のキーワードの一つは「社会に開かれた教育」。「学校で学ぶことが、社会に出てからも生かされるものでなくてはならない」という意味も含まれます。今回の授業での発問も、自分が当事者ならどう判断し、どう行動するかを考える意味で、思考力・判断力の育成につながると言えます。

世の中では Society5.0(超スマート社会)が到来し、定型的な一般事務等はAI(人工知能)が代替することで、人間は感性や倫理観、調整力などを発揮する業務にシフトしていくことが想定されています。そのため子どもたちに身に付けさせたいのは、読解力、表現力、情報活用力、対話や協働の力などであり、それらは教育の新しい課題だと言われています。

本校でも、新しい時代を迎えるにあたって子どもたちにどんな力をつける必要があるか、そのためにどんな活動をする必要があるのかを的確に見極め、また皆様から回答していただいた保護者アンケートの結果等も踏まえながら、来年度に向けて、今年度実践してきた活動内容の精選・改善を進めてまいります。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

「泣いた赤鬼」 あらすじ

人間と仲良くなりたいた赤鬼。そんな彼を見て青鬼は、「人間の前でぼくが暴れるから、きみはぼくをやっつけて」と提案する。2人は芝居を打ち、それを見ていた人間と赤鬼は念願の友達になった。その後、赤鬼と人間のじゃまにならないようにと、青鬼は「どこまでも きみの友達」という手紙を残して旅に出てしまう。

おめでとう

令和元年度「岐阜県ふるさと教育表彰」(岐阜県教育委員会主催)
優秀賞 谷汲小学校

(生活科や総合的な学習の時間のふるさと学習の取組が評価されました)

令和元年度「道徳教育奨励賞」(岐阜県教育委員会主催)
努力賞 谷汲小学校

(道徳授業や生活科、総合的な学習の時間のふるさと学習の取組が評価されました)

令和元年度「みどりの少年団活動発表大会」(岐阜県緑化推進委員会主催)
奨励賞 谷汲小学校(5年生代表が総合的な学習の時間の取組について発表しました)

3月の行事予定

- 3日(火) PTA 新旧役員引継ぎ会(旧本部役員会 18時30分～、新旧役員引継ぎ会 19時～)
- 25日(水) 卒業式(給食なし 11時30分下校)
- 26日(木) 修了式・離任式(給食なし 11時05分下校、6年生も朝は通常通りに登校)

4月始めの行事予定

- 7日(火) 着任式・始業式(8時30分) 入学式(9時15分)(給食なし 11時05分下校)

※8日以降の予定については、次号でお知らせします。

月曜日は、会議、研修等のため、原則として、5時間授業です。